





ふりがな 氏名	みやざき いずみ	都道府県	東京都	
	宮崎 いずみ			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科 ・One Young World (南アフリカ大会・アイルランド大会日本代表) 			
私のESD活動	高校でのTA・英語キャンプのサポーターとして子どもたちが自分の可能性に気づける教育を実現			
関心・活動のSDGs	  			

活動の概要

日本の子どもたちが自分の持つ可能性に気づいて、それを伸ばしていける教育を実現したい。

具体的な活動内容として第一に、都立高校の「探究活動」における学生TAとしての活動を挙げる。高校一年生がテーマを選んで学術研究を行う授業であり、そこで今年の六月より生徒と担当教員のサポートをしている。生徒たちは「国際・社会」というテーマを選んだものの、「自分が何に興味があるのか分からない」と言う。その中でマインドマップや入門書の輪読を行い、自分たちが何に関心を持っているのか気づかせようと尽力している。この授業を通じて、高校生たちが「自分」について知り、自らの持つ可能性の大きさを認識できるよう取り組んでいく。

第二に、英語キャンプでの活動がある。私は大学において言語教育学を専攻する中で、子どもたちに英語の楽しさを伝えることで、彼らの可能性を広げていきたいと考えようになった。そこで、群馬県の国立赤城青少年交流の家で開催されたEnglish Campや、公文の主催するEnglish Immersion Dayなどへ学生サポーターとして参加した。英語は自分の世界を広げてくれる「コミュニケーションの道具」であり、間違えを恐れず、積極的に発話することが重要であるという姿勢を伝えた。初めは自ら発話しなかった子どもたちも、キャンプの終わりには自分の言いたいことを伝えようとする姿が見られた。

・「Kumon English Immersion Day」 <https://www.immersioncamp.com/eid/>

今後の活動の展望と周囲や社会への還元

コンファレンスの参加を通じて、「子どもたちに自分の可能性を気づかせ、それを伸ばせる教育とは何か」ということについて考えを深めたい。そしてそれを実現することで、周囲や社会に還元したいと考えている。

第一に周囲への還元として、都立高校でのTA活動に学びを生かしたい。コンファレンスの参加後は、個々のプロジェクトをまとめ上げていく重要な時期となる。その中で、生徒が自らの関心に気づける環境づくりを行いたい。ただ宿題としてプロジェクトをこなすのではなく、それを通じて自分は何が好きで何をもっと知りたいのか、そして自分には大きな可能性があるということに気づかせたい。

第二に社会に対して、将来的に英語を使った活動を主催することで還元をしたい。「英語自体を教える」という活動よりも、「英語を使う楽しさを知れる場を提供する」ということをしていこうと考えている。それを通じて、たとえネイティブスピーカーでなくても英語を使うことを怖がる必要はなく、英語は「コミュニケーションの道具」であることを知ってほしい。そして子どもたちが将来の人生を設計していく中で、英語というツールが彼らの可能性を広げられるようにしたい。